

成人看護学実習2

単
位
数

3

時
間
数

135

3年次 5月～9月 開講

目的

成人期にある対象の特徴を理解し、健康の状態に応じた看護が実践できる。

目標

1. 成人期にある対象を総合的に理解することができる。
 - 1) 対象の発達段階と発達課題が理解できる。
 - 2) 対象の発達段階をふまえ、身体的・精神・社会的側面が理解できる。

2. さまざまな健康の段階にある対象の看護が実施できる。

【周手術期にある対象の看護】

- 1) 周手術期にある対象が理解できる。
 - (1) 麻酔や手術侵襲が全身に及ぼす影響を理解し、身体的側面が理解できる。
 - (2) 手術を受ける対象の心理的・社会的側面が日常生活に及ぼす影響を理解できる。
- 2) 周手術期の段階に応じた援助が実施できる。
 - (1) 手術に向けて心身の状態を整えるための援助が実施できる。
 - (2) 入室時の援助ができる。
 - (3) 手術中（麻酔導入時から覚醒まで）の援助ができる。
 - (4) 術後の回復を促すための援助が実施できる。
- 3) 家族の支援ができる。

【急性期にある対象の看護】

- 1) 急性期にある対象が理解できる。
 - (1) 急激な生体機能の変化による全身への影響が理解できる。
 - (2) 急激な生体機能の変化をきたした対象の心理的・社会的側面が理解できる。
- 2) 急激に変化する病態や病状に応じた援助が実施できる。
 - (1) 生命の維持・回復のための援助が実施できる。
 - (2) 合併症予防のための援助が実施できる。
 - (3) 苦痛を緩和するための援助が実施できる。
 - (4) 不安を緩和するための援助が実施できる。
 - (5) 日常生活を整えるための援助が実施できる。
 - (6) 家族への支援ができる。
3. 保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、責任ある行動がとれる。
 - 1) 医療チームにおける看護の役割を理解し、連携を図ることができる。
 - 2) 保健医療福祉の連携を図るための看護の役割が理解できる。

*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。

基礎看護学実習2、麻酔と手術療法、臨床看護総論、成人看護学概論、急性期看護、周手術期看護、慢性期看護、リハビリテーション看護、緩和・終末期看護